

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.17
2014.May

発行者 琉球病院事務部長
吉永 可公

院長

村上優(むらかみ・まさる)
1949年生まれ、
74年九州大学医学部卒業。
86年国立肥前療養所精神科医長。2002年国立肥前療養所臨床研究部長、
同年King's College London Institute of Psychiatry (司法精神医学研究所) 長期研修。
2005年花巻病院臨床研究部長(併任)を経て、2006年琉球病院長に就任。
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事、NGOベシヤワール会の副会長として活躍。



基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

【第3回琉球病院映画祭】

「アフガニスタン 干ばつの大地に用水路を拓く 治水技術 7年間の記録」(制作:ベシヤワール会・日本電波ニュース)と講演「ベシヤワール会 中村哲医師の30年の軌跡を支えて」

日時:平成26年6月14日(土)15:00~16:45

場所:沖縄県市町村自治会館大ホール(那覇市旭町116-37) 入場無料

このたび第3回の琉球病院映画祭を開催します。これまで精神科医療に関連して、自閉症の妹をドキュメントした赤崎正和監督の「ちづる」、第2回はイタリアのトリエステにおける精神科病院解体までを映画にした「むかしMattoの町があった」を開催しました。

第3回はパキスタン北西辺境州に1984年に赴任し、アフガニスタンの地で30年にわたって医療、農業、水事業を担ってきた中村哲医師の記録映画鑑賞会を行います。

中村哲医師とベシヤワール会は第1回沖縄平和賞受賞者(2002年)で、パキスタン北西辺境州から東部アフガニスタンにかけてハンセン病根絶計画に始まり、難民医療、東部アフガニスタンの山岳地域の医療、そして2000年に遭遇した大規模な干ばつに対して井戸を掘り、その後用水路を拓いて広大な土地を灌漑して60万人の生活を支えるに至りました。



映画は用水路を拓くまでの経過をドキュメントした映画です。

講演は当院院長でベシヤワール会副会長の村上優が、中村哲医師の活動を支えるために福岡市に結成されたベシヤワール会のこれまでを現地活動に即して紹介します。

多数のご参集をお待ちしています。

経営企画室長

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 80床
- ・医療観察法 37床



トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き
進捗状況 本体工事:請負業者 電気設備 (株)九電工
機械設備 (株)三建設備工業
建築(第1期)工事 (株)浅沼組

教育・研修

- 平成27年度採用看護職員就職説明会 平成26年5月24日(土) 那覇市ぶんかテンプス館
- 第10回 司法精神医学会大会
平成26年5月16日(金)~17日(土)2日間 沖縄県那覇市男女共同参画センター
- 第3回 琉球病院映画祭「アフガニスタン干ばつの大地に用水路を開く」
(第1回沖縄平和賞受賞者、中村哲医師とベシヤワール会の30年の軌跡)
平成26年6月14日(土) 14:00~16:45 市町村自治会館 大ホール(300名予定) 無料
- 「看護の日」イベント~地域住民の皆様の健康相談~
平成26年5月26日(月)10時~14時 金武町「スーパーかねひで」駐車場内
血圧測定・骨密度測定・体脂肪測定・健康相談他

地域医療連携室だより

アルコール・薬物等の問題を抱える方のご家族を対象に、当院では家族教室を開催しています。当院に通院していない方のご家族も参加可能です。費用等もかかりませんので、関心のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

開催日:毎月第2、4金曜日(祝祭日はお休み) 14時~15時半 問い合わせ先:北1病棟又は地域医療連携室

お問い合わせ時間
8:30~17:15(土・日・祝日以外)
TEL:098-968-2133(代)
内線:231・234
FAX:098-968-7370
地域医療連携室直通



空床状況
4月28日現在

精神科病棟 8床	認知症 5床	アルコール 3床	児童思春期ユニット 2床
-------------	-----------	-------------	-----------------

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目の投与を開始し、全症例は110例になりました。3月の新規導入は3例でした。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も40例を超えています。クロザピン専門外来も2回/週行っており、患者様のご相談をお待ちしています。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成26年3月の治療実績3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。



こども心療科

こども心療科専用の待合室が完成しました。成人の待合室と完全に分けた作りになっており、絵本や子育てに関する本を設置したり、遊びながら待てるような空間になっております。

今後もこどもたちにとってより良い治療環境を考え、診察室やプレイルームを整えていく予定です。



認知症医療

<認知症地域ケア研修会について>

認知症治療病棟に入院が決まった際、ご家族の皆さまへは「入院のご案内」を用いて入院に必要な物品をはじめ、入院生活の1日の流れについて説明を行っています。その際に、認知症についてご家族の皆さまにも理解頂けるよう、「ペコロスの母に会いに行く」などの資料や、「認知症のこころ世界」「認知症の人の心を感じて」というDVD鑑賞もお勧めしておりますので、ぜひご活用ください。



重症心身障がい児医療

重症心身障がい病棟では、重度の知的障がいの方が多くいらっしゃいますが、併せて自閉症等のいわゆる発達障がいをお持ちの方もいらっしゃいます。中でも自閉症の方にとって、4月は大変な季節です。なぜなら人事異動や配置換えなど、関わりのある職員の顔触れが変わるため、必然的に環境変化を経験することとなるためです。自閉症の方にとって、些細な「変化」でも適応には困難さが生じますが、4月は大きな変化を伴う季節です。当院の重症心身障がい病棟でも、変化に適応出来ずに精神的不安定さを呈したり、パニックや暴力等行動上の障がいとして不安定さを表出する方もいらっしゃいます。しかし4月から5月にかけての時期を乗り切ると、やっと「慣れ」という形で環境への適応が出来てくることが多いようです。私たち職員も、こういった利用者の特徴を知った上での対応が求められたなど考えた4月でした。

療育指導室 守山

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では3月現在、外来通院の患者様56名、入院中の患者様24名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入をすすめています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

<平成26年度 第4回 HAPPYプログラム研修会のお知らせ>

平成26年6月13日(金)に、平成26年度 第4回 HAPPYプログラム研修会を、当院にて開催致します。HAPPYプログラムとは、減酒支援のための包括的なプログラムです。佐賀県の肥前精神医療センターが開発し、毎年1回全国を対象に研修会を開催しています。当院では肥前精神医療センターと共催で、同一の研修会を、沖縄県の健康管理に携わる方を対象に開催しております。厚生労働省は、昨年初めて「特定保健指導における減酒支援」を盛り込んだ保健指導マニュアルを作成しました。今年4月に発表された「健康長寿おきなわ復活県民会議」の目標でも、定期的な健康診断の受診、肥満の解消に加え、「適正飲酒」を掲げています。まさに、減酒支援は今後ますます必要とされるスキルです。この機会にぜひ当院の研修会をご受講下さい。

包括的地域精神医療 (ACT)

平成25年度厚生労働省科学研究費補助金(3年目/3年間)

「地域生活中心」を推進する、地域精神科医療のモデル作りとその効果検証に関する研究へ、当院はローカル班として参加をしています。3年間の検証期間で3月に終了しました。検証の成果として、都会型の場合は、アウトリーチーム(ACT)で24時間関わり入院によらない医療を行った場合のサービス量を時間、利用者の満足度等を検証するものです。当院は、ローカルモデルとして、24時間体制のACTを展開するのではなく、地域の支援者と共に地域と医療が連携し、包括的な医療を検証しました。本体の研究では、退院直後のサービス量は入院費用と変わらない。サービスが濃厚に入ること、信頼関係が高まる。段々と安定すると、サービス量が減少する。しかし、検証期間は1年間でありデータとして充分ではなく、今後の継続した検証で結果が見えてくるのではないかとこのことです。当院は、今後の地域との連動を重視し、アウトリーチームの充実をさらに進めて行きたいと思っております。

臨床研究部活動状況 - 臨床心理学研究室より -

【当院における就労準備プログラムの取り組み】作業療法士 村田雄一

医療観察法の対象者の中には事件を起こした・病気であるという二重のスティグマに苦しむ対象者が存在しており、リハビリテーションを促進すること・新たな生きる意味や価値を創出する一助を担うアプローチがそのうち研究の同意が得られた7名の対象者に対し、プログラムの前後でローゼンバーグ自尊感情尺度と日本語版リカバリーアセスメントスケール(以下RAS)を実施し、その変化について評価をした。結果として、ローゼンバーグ自尊感情尺度に有意な変化は認められなかったが、RASに有意な変化が認められた。また、対象者からは現実感や自己認識が高まり、目標が明確化されるという変化が確認された。このプログラムは対象者の主体的な治療への関与を促進する効果があると考察した。

